

団長の独り言

12月21日(日)

「前半・後半に分けて通してみました。」

この土日の稽古で、土曜日に後半、日曜日に前半を通してみた。

通して芝居全体を見てみると、これまで行ってきた「抜き稽古」では見えなかった「不自然な芝居」が結構あった。

何度も何度も各シーンを繰り返し、丁寧にやって、動きも芝居も何度も修正し、演じる役者と話し合いをしながら各シーンを作り上げて来たのに、いざ通してみると「？」ってなるんだから、芝居は通してみなきゃ分かんないよね。

今日の稽古でも、1幕の初っ端から芝居を止めたいという場面もあったけれど、「通し」って事でグツと抑え、ひたすら「ダメ出しノート」にダメを記し、さらに芝居を進めて見ていくと、他の場面では通し稽古の良さも出てきて、「役の人物に魂が入った」とでもいうのかな？活き活きた人物達が、物語の世界を縦横無尽に駆け巡り、引き込まれるシーンもあった。

だからこそ余計に「不自然な芝居」が目につくってもので、ラストのクライマックスシーンなんかも、何度も何度も繰り返し行ってきた、「よっしゃ！完璧じゃ！」

と思っていたにも関わらず、昨日の通しでは「なんか違うなあ」と感じてしまった。

これが「通し稽古」ってやつ。

「抜き稽古」で出来たからと言っても、必ずしも「100点」ってわけではなく、本番を想定した「通し稽古」を行って、初めて見えてくるものって意外とある。

つまり、「通し稽古」と「抜き稽古」では緊張感やリズム、そして間合いとかが違うので、実戦(本番)を想定した「通し稽古」は、とても重要なんだということが、昨日、今日の稽古でもよく表れていた。

そういえば、今、巷ですごい数の「演劇ワークショップ」ってものが開催されているけれど、そこでのレッスンの中には、エチュードという寸劇もあったりする。

ただそのエチュードってのは、あくまでも役者個人のスキルアップが目的なので、いくら本格的演劇プロジェクトのワークショップとはいっても、実戦(本番)を想定した「通し稽古」とでは、緊張感や相手役のと間合いとかは、やはり違うと私なんかはそう思う派。

それは劇団ふあんハウスで毎回開催しているワークショップも例外ではない。

特にふあんハウスの場合、どこぞの本格的演劇なんちゃらワークショップのように「短時間で確実に芝居が上手くなる」という魔法のような事は謳ってはいない。

「演劇を体験してみたい」「楽しくお芝居

つてものに触れてみたい」「身体を使って表現するってことを体験してみたい」等の「お芝居を楽しみたい」という事を目的とした演劇ワークショップなので、毎回「笑い」と「温かさ」を意識しつつ、充実感を味わってもらうように努めている。

そんな劇団ふあんハウスのワークショップではあるが、受講生の中から実際に出演者として参加する人は数多くいる。

その皆さんが口を揃えるのは、「ふあんハウスのワークショップのレッスンと、公演の稽古って全然違いますね」という事。

お客様から入場料を頂戴してお芝居をご覧いただくのだし、「自分のため」に参加するワークショップと「本番のため」の稽古では、まるで違ってくるのは無理もない。

そういえば過去に、劇団ふあんハウスワークショップ受講生の方で、すごくセンスが良くっていい芝居をする人がいたので、「ぜひ！劇団ふあんハウスに出演を！」とオファーをしたら、「本公演は色々制約もあるし、稽古に毎回参加するのは煩わしいし、何より失敗すると、お客様はもちろんの事、共演者の皆さんにも迷惑をかける事になるので、僕はワークショップしかやりません」という人がいた。

なるほど、そういうお芝居の楽しみ方もあるのかあ〜と妙に感心した記憶がある。それはそれで「趣味」として、演劇ワーク

ショップを楽しんでいるのだからいいと思うし、そういう演劇との携わり方をする人もいるんだ！と新鮮な気持ちになった。

話がかなり脱線したけれど、だから「抜き稽古」や「エチュード」と「通し稽古」では緊張感が違うって事なんだけど、では抜き稽古はやる必要はないのか？と言えば、全くそんな事はなく、抜き稽古の積み重ねがあったからこそ、ようやく「通し稽古」にまでたどり着く。

そりゃ〜商業演劇のように稽古期間が短くて公演期間が長ければ、本番の中で修正していくので、さほど「抜き稽古」には時間をかけないけれど、やはり芝居の稽古の基本は「抜き稽古」を丁寧に言う事だと私は思っている。

「抜き稽古」で悩み苦しみ、そしてドキドキしながら「通し稽古」を行って、よりいいものにすべく修正を施して、また「通し稽古」に集中し、ようやく本番に挑む！というのが、芝居の創り方だと思っている。

こんなやり方も、なんでも合理的な今の時代では古臭いって言われるのか？

なあ〜んて事を考える暇もなく、劇団ふあんハウスの稽古は続くのでありました。